

令和2年度森林・林業の技術交流発表大会 共同研究成果を発表

～ 発表課題 労働災害ゼロを目指して 森林整備の推進の取り組み ～

10月28日、九州林政連絡協議会(会長:九州森林管理局長)主催による、令和2年度森林・林業の技術交流発表大会が開催され、大分愛林(有)代表取締役 川野 豊晴 氏、大分署から植薄森林技術指導官、後藤事務管理官補が共同研究成果を発表しました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として初めての試みでリモート方式による大会となりました。

はじめに、主催者を代表して、九州森林管理局長から「本大会は、九州・沖縄の産学官の森林・林業関係者が一同に会して、日頃の取り組みの成果を発表し、森林・林業の活性化、林業技術の向上を目的としています。これから発表される皆様の日頃の努力に敬意を表しますとともに、その研究成果をしっかりと発表してください。」と挨拶がありました。

今回、共同発表する課題を取りあげた背景は、昨年9月、12月に林業において死亡労働災害が発生したことを、林業・木材製造業労働災害防止協会が重く受け止めて、令和2年1月20日、同協会大分県支部に対して「林業死亡労働災害多発警報」を発令(令和2年1月20日から4月30日)し、関係機関・団体と協力して労働災害防止対策を推進し、再発防止を図ることとなりました。

このことを踏まえて、大分愛林(有)と大分署では、労働災害ゼロを目指して、森林整備を推進するための具体的な対策、安全意識を高めるため、目に見える形の安全対策について発表しました。

講評では、審査委員長(森林総合研究所 陣川 九州支所長)から「今回は、初めての試みとしてリモート方式の発表大会となりましたが、スムーズな運営に御協力いただきありがとうございました。発表課題は、各部門合わせて23課題がエントリーされ、今後の森林・林業後術の向上につながると考えます。さらに研鑽に努めてください。」と講評がありました。

大会閉会后、猪島大分森林管理署長から共同発表者をねぎらうとともに、「今後も森林整備を進めるうえで安全対策は重要であります。引き続き安全第一でお願いしたい。」と挨拶があり大分署会場も閉会しました。



大分署会場 猪島 大分署長 挨拶



発表者左から植薄、後藤、川野の3氏



大分森林管理署 会場の様子



目に見える形の連絡体制の構築